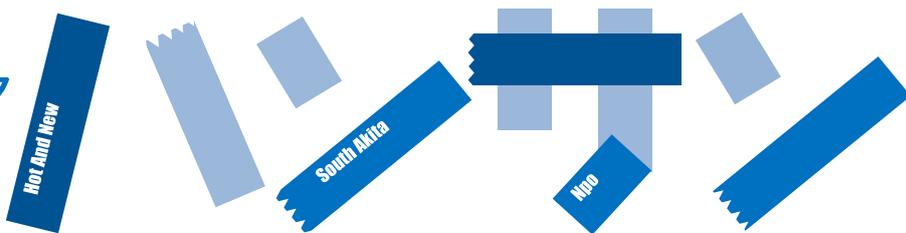


県南のNPOを情報でつなく、ささえる。

秋田県ボランティア NPO 活動ニュース

「県南版」



P2 ……活動ウォッチング

聴覚障がい者の観光マップを作ろう会（仙北市）

P3 ……がんばる地域応援隊

女性ドライバー誕生（さるはんない三平カー）

P4 ……秋田県南 NPO センターからのお知らせ

新型コロナウイルス感染予防について

「地域の道路をきれいに」

6月下旬、湯沢市の共助組織「羽場・市野・皿小屋地域 生活サポートシステム」によって県道の草刈り作業が行われました。秋田県 雄勝地域振興局からの委託を受けて行なった事業ですが、委託費の一部は高齢者宅の除排雪活動などの活動資金に使われます。県南部の他の地域でも共助組織による県道や河川の草刈りが行われており、組織としてなるべく自立した活動ができるような工夫がされています。

（八嶋 英樹）

7

July 2020

Vol.152



活動ウォッチング

THEME_ボランティア/NPO

安心して選ばれる観光地を目指して

DATA_団体情報

聴覚障がい者のための
観光マップを作ろう会（仙北市）

代表/小松 龍子さん

連絡先/TEL 0182-42-8399



仙北市で「聴覚障がいのある方にも、みんながお使いいただける田沢湖・西木観光マップ」が作成されました。

このマップを作成するきっかけとして会長の小松龍子さんのおよそ10年にも及ぶ思いがありました。聴覚障がいを持つ方は10年前の調査でも全国に36万人いたそうです。

「耳マーク(聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマーク)」の表示は、仙北市内では一般の観光施設には殆ど設置されていませんでした。設置されていてもほとんどが窓口にあったため、聴覚障がいのある方は中に入るまでマークの設置に気づくことはなく、利用をためらうケースもあったといえます。



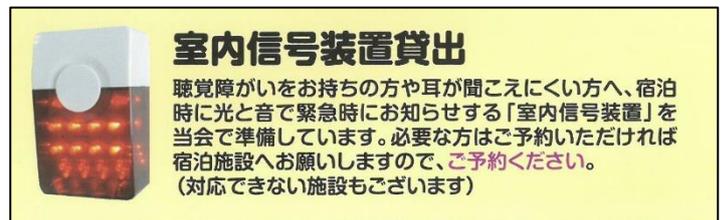
今回の取り組みにより、「耳マーク」の設置施設は昨年度内に約60か所増え、現在は全部で65か所となっています。今後は設置場所の拡大と、施設の概要や連絡先一覧のMAP掲載などを検討していきたいと小松会長(写真左)。

作ろう会では、非常時に聴覚障がいのある方も視覚的に気づくことのできる「室内信号装置」の貸出も推進してきました。



令和元年に小松さんを会長として「聴覚障がい者のための観光マップを作ろう会」が設立され、聴覚障がいを持つ方に配慮した「耳マーク」の普及と玄関口への設置推進、そして「耳マーク」に対応できる施設が掲載された観光マップの作成が取り組みました。

仙北市観光課、仙北市社会福祉協議会、田沢湖・角館観光協会も協力団体として関わり、秋田県南 NPO センターもその活動をサポートしてきました。



▲現在は田沢湖・西木地区の宿泊施設へ貸出しています

聴覚障がいのある方が暮らしやすい地域になるとても良い取り組みであることはもちろんですが、地域の観光においても、安心して訪れることのできる観光地としてファンを増やすことで、訪れる観光客の拡大にもつながります。

今後は他地域への波及効果にも期待が集まります。



New がんばる地域応援隊



さるはんないきょうじょうんえいたい
Vol.1 狙半内共助運営体(横手市)

30代の女性ドライバーが誕生(ミニバン有償運送「さるはんない三平カー」)

●横手市狙半内地区のミニバン有償運送三平カーに30代の女性ドライバーが誕生し、6月9日に初運転が行なわれました●



(白澤 瑠莉子さん)

Q.初日運転してみてもいかがでしたか？

A.運転は慣れていますが人を乗せているので緊張します。

実際に走ってみてこんなにこのバスを必要としている人がいるんだなと感じました。皆さんがありがたいと言ってくれたのがとても嬉しかったです。

Q.ドライバーをやってみようと思ったきっかけは？

A.奥山さんにやってみないかと誘われて、それから地域のために自分ができることは何だろうかと考えようになり、運転してみることにしました。



(奥山 良治さん)

Q.今回引継ぎで同乗されてみていかがでしたか？

A.覚えが早いし運転も上手で、今日乗ったお客さんもすごく喜んでいました。我々よりも白澤さんのような若い女性が運転したほうがお客さんも和むし、地域に明るい花が咲いたような印象があります。

Q.ミニバンによって狙半内はどう変わりましたか？

A.お年寄りのかたが明るくなりました。ミニバンに乗るのが楽しみで生きがいという人もいます。白澤さんの運転について、若い人と会話できるのがうれしいと、皆さんとても喜んでおられました。

●狙半内共助運営体による通院・買い物支援●

狙半内地区では平成24年度秋田県南NPOセンターの呼びかけで共助組織「狙半内共助運営体」が設立されました。当地区では唯一の交通手段となるコミュニティバスのバス停まで2キロ以上歩かなければいけない高齢者が多数おり、そういう方たちにとって通院や買い物は大変困難な地域となっていました。平成24年度の冬期間に、社会実験として通院買い物支援を地域住民自ら実施しました。実施するにあたっては、事故があったらどうするのか、自動車保険はどうするのか、車両は誰が提供するのかなどの意見も出されました。



▲ボランティアによる通院買い物支援



▲株式会社マルシメの無料シャトルバス

●地域の取り組みの進化●

社会実験を通じて、住民による無償の取り組みに代わるものが必要と考え、平成25年4月に、横手市十文字町のスーパーモールラッキー(株式会社マルシメ)と自社マイクロバス(運転手つき)による買い物送迎支援について合意に至りました。

平成29年11月からは、トヨタ自動車の呼びかけによって狙半内地区でのミニバン(福祉車両)を使った住民バス運行の実証実験が始まり、翌年10月からは本運行が始まりました。狙半内共助運営体と横手市が運転の委託契約を結び、月～金曜の週4日、スーパーや病院のある街部まで4往復走らせています。

●若い世代への期待●

こうした取り組みは、先に住民が動くのか、それとも行政が呼びかけるのかといった課題はありますが、共助組織のような地域課題に目を向けた組織の存在は、地域づくりにおけるとても大きな力になると感じます。

これまでは60代から70代男性による運転で運営してきましたが、白澤さんの参加をきっかけに若い年代の地域づくりへの参画を期待したいと狙半内共助運営体会長の奥山良治さんは言います。

(八嶋 英樹)



県南部の市民活動団体等に役立つ情報のほか、男女共同参画の推進、若者の自立支援等に関する情報をお伝えします。

「新しい生活様式」と市民活動 通いの場×新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染症の発生により、私たちはかつて経験したことのない状況の中にいます。感染を防ぐ理由から、これまであたりまえに出来ていたことができなくなったり、変更を余儀なくさせられる状況がこれからも続くと思われまます。ボランティア・NPO等の活動においても、感染拡大防止の観点から、安全確保の対策を施し、政府が推奨する「新しい生活様式」を取り入れながら、活動を継続していく必要があります。

5月27日地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所の社会参加と地域保健研究チームが、地域の通いの場の再開に向けた住民向けの実践の手引きとして「通いの場×新型コロナウイルス対策ガイド」を発行しました。抜粋してご紹介します。

●通いの場の再開時における感染症対策をふまえた5つのポイント

①参加に際してのルールの設定

- ・発熱（37.5℃以上もしくは、平熱より1℃以上高い）、風邪症状がある場合は自宅療養しましょう。
- ・マスクもしくはそれに類する布により咳エチケットの対応を行いましょう。（特に会話時や歌唱時には要注意）
- ・手洗い、うがい等の基本的感染症予防対策を徹底しましょう。

②ソーシャルディスタンスの確保

- ・大人が両手を広げてお互い手を握れる距離が取れる人数は何名くらいかを確認しましょう。
- ※人数が多い場合には、時間を分けて複数回に分けて実施するの一案です。

③重点消毒の箇所の設定と消毒の実施

- ・複数人が触れる場所を検討し、消毒液等で適宜消毒しましょう。

④換気方法の確認とルールの設定

- ・毎時2回以上、数分間の換気を行う（回数は目安）。
- ・換気の悪い場所は極力使わない。

⑤運動時のこまめな水分補給（熱中症対策）の実施

- ・マスクを着用して運動を行う場合、特に暑くなる時期は、こまめな水分補給を実施しましょう。

●通いの場の再開前に、感染症対策とあわせて考えたい8つのポイント

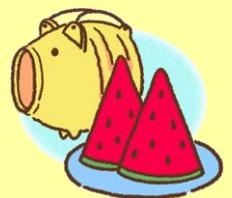
- ①通いの場の目的を確認する（見直す）。
- ②通いの場の開催方法を確認する（見直す）。
- ③スタッフ同士のコミュニケーションを強化する。
- ④通いの場に来てた人達の足を遠ざけない。
- ⑤新しい参加者や協力者を得るチャンスに変える。
- ⑥他の通いの場と連携するチャンスに変える。
- ⑦地域の理解を得ながら再開する。
- ⑧自治体等の専門機関・専門職と連携する。

これから暫らくは新しい生活様式を「日常」と捉え、積極的にこれからの行動を見直していきましょう。

「通いの場×新型コロナウイルス対策ガイド」は東京都健康長寿医療センター研究所のホームページからダウンロードできます。

URL:<https://www.tmghig.jp/research/release/2020/0529.html>

（八嶋 英樹）



編集スタッフの
つぶやき VOL.02

ハンサン編集部
八嶋 英樹

かつて経験したことのないほどの変化が迫られるこのコロナ禍です。もうしばらくこの新型コロナウイルスというものと共存していくことになりそうですが、自粛に慣れてしまった生活をなるべく元に戻す努力と、新しい生活様式を自ら工夫しながら考えて変えていく努力が必要だと思う今日この頃です。目に見えないものとの闘いは自分との闘いでもあります。油断はできないのですが、だからといって立ち止まって動かないわけにもいきません。きちんといま必要とすることにきちんと対応できるよう、必要とする情報にアンテナを張って感染対策をしておきたいと思います。

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン

2020年7月10日発行
7月号 VOL.152

発行：秋田県あきた未来創造部地域づくり推進課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター（南部市民活動サポートセンター）

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00
土・日 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始（12/29~1/3）

〒013-0046 横手市神明1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail: ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/

